

知人への

それでも、私はやってな

ベッキー

SMAP

シヤニーズで孤立深まる村拓哉



やっとな離婚成立！支えなくなった新恋人の存在

大なりきフェイス図鑑20

おそ松さんのウラ側を体感

4月5日号 定価390円 主婦と生活社

堺雅人 描き方見たことない



あなたの隣のブラックママ友

美男子で被災地へ訪問秘話

七難隠すレイヤーヘアで変身

正義感の強い息子が死を選んだ理由

四天樹純

コミュニケーションを取らない親子関係がさらに！

土屋太鳳 超多忙な女優

10P大特集 最新の衣・食・住

結婚・出産を親に知らせない子どもたち

強く美しく、妖艶に

石倉三郎

あの人に会ってほしいと願った

小泉今日子

初共演で

大野智

本当はいないんじゃないのか

安倍首相

元女優との思い出いっぱい

仁科克基

秘策？ホイ！

保育士

保育園落ちた

小塚崇彦

氷上から完全引退

日本死ね

保育士の安月給をどうにかする

ちの声

政治を動かした



運転中の突然死は

最終活! 最期のときの.....とを考えてますか?



住・食・衣

最終活! 最終生女子、宮下二重、本誌「終活」取材班

終活の春、「アナタの理想の死に方を教えてください」

「理想の死に方を教えてください」という質問に10代から70代までの週女読者、男女276人が答えてくれた。

いちばん多かったのは、「ピンピンコロリ」派。「ひとりで暮らし、心臓が……と救急車を呼び、病院でコロッと、葬儀は家族のみ」(50代女性)、「身辺整理(遺書作成含む)終了後、間もなく、自室で突発の病死」(30代男性)、「麻酔で血管が切れる。道端で死んでいるところを見つかる。身元不明で処理。自分が死ぬころには身内も全員いなくなっている」と思うので、財布の中には、火葬費用くらいは入れておきたいです」(40代女性)、「夫婦で楽しい車旅の途中、事故で即死。自分で気づかないくらいが恐怖が少なく、ありがたい」(40代女性) などなど。死に場所としては自宅、病院、そして旅先も人気だった。

「春のすみずみまで、心と終活の準備を済ませたい。死に装束、お墓、お彼岸の食事、最後のファイナルについて考えること。お墓、お彼岸の食事、最後のファイナルについて考えること。お墓、お彼岸の食事、最後のファイナルについて考えること。お墓、お彼岸の食事、最後のファイナルについて考えること。」

「次いで多かったのが、大往生」派。「愛する夫の安らかな最期を見届けてから就寝中に老衰で死ぬ。墓はなし、火葬後に高い山の上から骨をまいてもらう」(20代女性)、「借に言う大往生。老衰で眠るように。自宅の布団で亡くなりた」(40代女性) など。眠るような安らかな死、を理想としている。

また「がんで余命1年と言われて、自分の身の回りを片づけ、宝石などを友達に分けて、温泉などに旅行する」(50代女性)、「余命宣告を受け、痛みの緩和ケアを受けつつ日常生活を送る。事後の対応を整えて感謝を述べて逝きたい」(50代女性) など、自分の死期を理解して亡くなるという、年齢を問わない、病死、涙も目立たない。

「そのほか「暗殺された」(40代男性)、「地球儀が発で地球民たちとともに」(30代女性) などといったヒロイック(?)な願望を持つ人も。

「若くして惜しまれつつ死にたい。いつもないがしろにされているので、周囲の人にその行いを後悔させた」(20代女性) という死に方に強烈なメッセージを忍ばせたいと望む人もいた。

「孤独死できるなら私はそれを選びたい。一人で最後まで暮らし、病院で管につながれることもなく死んでいけるなら、本望」と言い切るのは50代女性。

「子どもも伴侶もいるが、一人で、片づいた部屋のコタツで好きな本を読みながら、うたた寝してらうちに心臓が止まってくれたら理想的です。少々苦しむだろうが老人は天の配剤で痛みが鈍るといっているのでそれに期待している。娘たちにも、ママがパパを見送ってひとりで暮らして死んでいても嘆かなくていいからね」と伝えてある「そうだ」。

具体的な死に際のイメージが多く寄せられたが、厚生労働省の統計によれば約8割が「病院死」と実はままならない。自分の最期をこの春、ぜひ一度じっくりと考えてみてほしい。

最期のときの…… 衣・食・住

次号 祝・開業 北海道新幹線 グルメ & 観光
ここがスゴイ! 使える情報満載号は3月29日(火)発売!

衣

普段着ている服
ジーンズにTシャツでいい
(40代男性)

ウエディングドレス
結婚式をしていないので、婚礼衣装がいいですね。
和洋にはこだわりません(50代女性)

夫に買ってもらったワンピース
思い入れの強い服がいい
(30代女性)

自無垢のような死に装束
親戚の方が着ていて、先に亡くなってしまおう
主人に、もう1度嫁ぎたいので(40代女性)

**自分が所属している
バスケットボールチーム
のユニホーム**
中学から現在までバスケットボールをしており、バスケットボールを通じてたくさんの思い出ができたので(30代男性)

生まれた姿で!
寝るときもこれ。開放感があっていいです(40代男性)

週女読者276人に聞いた!
「人生最後に着る服! アナタが着たいのは?」

そのとき、いちばん気に入っている洋服で
白装束はいかにも感があり嫌です
(40代女性)

ハイカラさん風の持姿♡
私に似合う気がするから
(30代女性)

一般的な白い和服
着物が日本人にはいちばんしっくりくると思う。ドレスは家族や友人をギョッとさせそう(笑)(40代女性)

紺色のズボンにグレーのニット
お気に入りだから(50代女性)

「思い出の服を着たい」(120票)という声が大多数。白い着物(93票)やドレス(34票)も健闘! その他「チアダンスのユニホーム」(20代女性)、「家族が自分を思って着せてくれるなら何でも」(30代女性)などの声も

人生を物語る「最期のドレス」
見送る人に感謝を込めて

納棺時、故人の死に装束は白い着物が一般的だ。だが、最近は最期の衣装として、自分が着たいものを選ぶ人が増えているという。そんなニーズに応えるため「最期のドレス」を扱うメーカーも増えつつある。宮崎県にある「アトリエ emu」は、17年も前から死に装束用ドレスを製作する老舗。まだまだ死に装束としてのドレスが浸透していない時代に「ラストドレス」を作ったきっかけを、代表の三岡裕子さんは、こう話す。

「もともとはブティックのお客様と、最期の旅立ちの衣装。* について話している。その方の着たいものとは、実際の死に装束が、あまりにもかけ離れていると感じたのがきっかけです。自分ならもっと新しいものを作れるのでは? と、思い、当時ブライダル衣装の仕事をしていた姉と話すうち、ひとりひとりのイメージに合わせてドレスを作ろう」とアイディアが膨らみました。ところがバートナーと呼ぶべきその姉が重い肺の病気、過労、慢性肺脈管腫瘍症にかかり余命2年と宣告される。

「姉は、私を顧客第1号にして、ドレスを作って」と言いました。でも、私はどうしても作れなかった」



試作途中の「光の庭」の男性用タキシード



まるでウエディングドレスのような華やかなデザインは、「アトリエ emu」のラストドレス

亡くなった。それから三
 隔さんは、姉の分まで生き
 ねば、と氣を強めて暮ら
 す。が、そんな彼女をさら
 なる悲しみが襲う。

「今度は上の姉が子宮体が
 んでくなくなったんです」
 姉さんの人生を背負って
 生きる、その絶望感に苦し
 んでいたある日。

「姉が元氣だったころ庭に
 植えた桜を眺めていたら
 『そろそろドレスを作って
 ……』という声がかえった
 がしたんです」
 私は生かされている。な
 り人の役に立てるよう、

「三隔さんは決心したと
 ころ限り時間を測こう
 ◆ ◆ ◆
 ローグサロン 光の
 衣の杉下由美さんが
 ソロンを開設したの
 ハの夫の死がきつか
 のとおりに、光がさ
 差し込む気持ちの
 リエだ。」

この死に装束は、相
 スも生地がペラペ
 レスメーカーのもの
 てもデザインが今ひ
 こんなのイザだな、
 自分で作りたいなと
 考えていたころ、光のソ
 ロンで出会った。



杉下さんが母のために制作した遺物
 「ハリウッドドレス」。イギリスのキ
 ャサリン妃も使用したというフランス
 のリバーレースやドレス用のシルクを
 用いた。重厚感あふれる仕上がり



「光の遺」ではドレスだけでなく、
 合わせるバッグや靴も、故人の好き
 だったモチーフでデザインできる



大きなコーサージュが華やかな印象。
 「Atrium」のドレス

人を見ると、なんとタイガ
 ーのユニホーム姿！ そ
 の瞬間、生前のご主人の素
 敵な人生が鮮明に浮かびま
 した。「死ぬときこそ、好
 きなものを着たいはず。私
 は故人の人生を映すドレス
 を作りたい！」と思っただ
 けです」

そんな杉下さんの渾身の
 作品が、母のための「ハリ
 ウッドドレス」(写真右)
 だ。現在、アルツハイマー
 病を患う母に、どんなドレ
 スを着たいか尋ねると「か
 わいいの♡」とひと言。そ
 れなら思いきりかわいいの
 を着たいと、母が大好きな
 ハリウッドドレスを制作す
 ることに決めた。

ウッド女機
 が着るウエ
 ディングド
 レス」をイ
 メージして
 制作。その
 製作費は1
 00万円を
 超え、「さ
 すがにやり
 すぎた感ほ
 あります
 ね」と笑
 う。

杉下さん
 の作るドレ
 スは、どれ
 も寝ているとき最高にき
 れいに見えるのがこだわ
 り。寝ていると首が詰まる
 ので、襟を少し起こす。や
 せてしまった脚のラインが
 出ないように、ドレスにチュ
 ールを入れて張りを出す。
 デザインだけでなく、シル
 エットも上品に見えるよ
 う、細心の注意をほらう。

「ドレスは急用する方も
 いるので、セミオーダータ
 イプも用意しています。例
 えば、お花が好きだった方
 には花柄の布でポイントを入
 れるなど、その方の世界
 観が出るように作れます」

大いなる挑戦への
 思いを込めて

着る本人が意識のあるう
 ちにオーダーに来るのか、
 または作ってあげたいとい
 う家族が来るのか。まだ広
 くは知られていない死に装
 束用ドレスだけに、どんな
 人たちがどんなタイミン
 グで来店するのか。前出・三
 隔さんが教えてくれた。

「ご家族がいらっしやるこ
 とが多いですが、さまざま
 です。印象深かったのは、
 生まれてこのかた、ずっと
 病院を出たことがない女性
 のお母様。その方自身もこ
 病気で、人工透析をしてい
 ました。「ラストドレス」
 発表会が地元新聞に取り上
 げられたのを見て、「これ
 だ！」とひらめいたそう」

この女性は洋裁ができ
 「自分もドレスを作りた
 い」と来店。ドレス作りを
 教えるわけにもいかず、ほ
 かの顧客にも迷惑がかかる
 と判断、丁寧に断った。だ
 が女性は何度も来店して
 は、ドレスを眺めて帰る。
 見かねた三隔さんが話し
 かけた。

どうしてもウエディングド
 レスを自分の手で作ってあ
 げたい。という理由がおあ
 りでした。
 私はどのようにお手伝い
 できるか悩みましたが結局
 局、ドレスの素材を提供
 し、娘さんの肌に触れる部
 分を手作りしていただきま
 した。納得いくものを差し
 上げたかった私は、ドレス
 の上に羽織るブラウスとブ
 ーケを作りました。ドレス
 が完成したときは、本当に
 喜んでくださったのを覚え
 ています」

杉下さんにも忘れられな
 い顧客がいる。
 「お子さんのためにドレス
 を選びに来た方は今まで3
 人。オーブン間もないこ
 ろ、お子さんの思い出話を
 語ってくれた女性がいまし
 ました」

九州の美味しいもの、発見。



このトロトロの液体。こんな凄いものだとはい。

九州の、ある地域で……
今、「南九州産 本くず湯」なるものが注目されている。
なんでも、「山々にある、自然の葛根(くずね)10kgから、300gしか採れない貴重な部分」を二部使っているとか。忙しかったが、

デスクで頂いたら……
凄いい！こんなものがあつたのか？！
しかも、「グリグリが止まらない」と表現したくなるほど「この感覚を味わいたい方、美味しく、天然の力を摂れる食に興味のある方は、是非、巻末ページをご覧ください」



大きな屋敷にひとりで住むこの女性は夫に先立たれていました。完成したドレスをボディーに飾り、

天井が高く日当たりのいいサロン。大きな窓からは公園の緑が見える。「光の庭」のサロンの隣の部屋では職人たちが丁寧にドレスを製作



毎日それを眺めては、これを見て、主人のもとへ行くのよ。と、素敵な笑顔で語っていたという。
また、男兄弟に囲まれて

育ち、一度もドレスを着た経験がない92歳女性のドレスも作った。白地に薄い紫を施した、高貴なデザイン。製作中に女性が肺炎にかかり、急いで仕上げたものを家族に渡した。家族が病院に持っていくと、女性より先に周囲の人が反応。「すこくきれいなドレス！」という声に女性はとても喜んだそう。
「親孝行ができた、と家族に言っていただいてうれしかったです。その方はその後、3年間お元気で。95歳で寿命をまっとうされました。完成したドレスを見て、ご危篤だった方がメキメキよくなることって、すこく多いんです。不思議ですよね」
と三隅さんうれしそう

身近な人が亡くなるのはとてもつらく悲しい。だが意外にも、覚悟を決めた家族たちは明るい表情で来店するという。ドレスを着る本人も、それを見て安らかな気持ちになれる。
「ラストドレスをご準備したお客様の100%が。これでもう死ぬのが怖くない。死への恐怖がやわらいだ。とおっしゃいます。死に装束としてのドレスがどこまで世の中に浸透していくかわかりませんが、みんな生きていく以上、いつかは死んでいくもの。死に装束にも選択肢があることを知っていれば、自分の最期について考えるきっかけになるかなあ、と。逝く人

ドレスをきつかりに最期のときを生きる

お話を聞いたのは……

「エピソードサロン 光の庭」代表 杉下由美さん



30代でスタイリストとして活躍後、ユニホーム店に就職。企画制作から集金まで、ユニホーム作りのノウハウを得、その後独立。'04年ワイズプランニングを設立し、'13年からエピソードドレスを扱う「光の庭」を開設。

「アトリエemu」代表 三隅裕子さん



東京の服飾専門学校を経て国家技能検定洋裁技能士補の資格を取得。母親が経営する婦人店を受け継ぎ8年間代表を務め、その後'99年に、インポート商品や婦人服、ジュエリーなどを扱う現在の「アトリエemu」を設立。

も見送る人も、最期を幸せな気持ちで迎えられるように、このドレスが文化になつたらいいな、と願っています」(三隅さん)
亡くなるまで女性は女性。素敵なドレスで天国へと旅立つ日、その表情は笑顔かもしれない。

